

2.3 データベースの特性 ～検索エンジンとの比較～

今日では、情報の検索にインターネット (Yahoo!・Google等の検索エンジン) を利用することが多くなっています。ご存知のとおり、検索エンジンは (インターネットの接続料を除き) 無料で利用できるものです。一方、これまで述べたとおり、データベースは高額な契約料を必要としています。

ここで、疑問に思われた方もいるのではないのでしょうか。

無料の検索エンジンがある (つまり、無料で情報の検索ができる) にもかかわらず、なぜ図書館では高額のデータベースをわざわざ導入しているのでしょうか？

それは、検索エンジンとデータベースの特性に違いがあるからです。主な違いは次ページの表のとおりになります。



2.3 データベースの特性 ～検索エンジンとの比較～

種別	メリット	デメリット
検索エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い分野の情報を調べられる ●無料である ●インターネットが利用できる場所であれば、利用の制約がない ●最新情報を調べられる ●必要な情報を直接見られることがある ●専門分野の基礎的な情報も得られることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ●体系的な情報調査が難しい ●調べた情報が整理されていない(内容がサイトごとにばらばら) ●調べたいことと関係の薄い情報も一緒に表示されるため、選別が必要 ●サイトによっては、内容の信頼性が低い ●内容の更新によって、調べた情報が変更・削除されるおそれがある
データベース	<ul style="list-style-type: none"> ●特に学術情報の調査に強い ●体系的な情報調査が容易にできる ●検索エンジンと比べて、関係の薄い情報は出にくい ●レイアウトを統一するなど、情報が見やすく整理されている ●キーワード・抄録(概要)が付けられているものもあるため、その情報のポイントが分かりやすい ●専門機関が作成しているため、内容の信頼性が高い ●いちど登録された情報は原則として変更・削除されない 	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれ対象分野が決まっています、それ以外の情報調査には弱い ●契約しないと利用できないものが多い(契約料が必要) ●契約機関(ここでは徳島大学)の中でしか利用できない ●最新情報を調べにくいことがある(データ登録に時間を要するため) ●「どのような情報があるか」までしか分からない(必要な情報が直接見られない)ものもある ●専門分野の基礎的な情報は得にくい

第2章 情報の種類と特性

したがって、情報検索の際には、検索エンジンとデータベースの特性を考慮して、検索対象に適した方を利用していくようにすればよいでしょう。どのような場合にどちらが適しているのか、目安として下表をご参照ください。

※ この表はあくまで「より適している方」です。内容によっては両方とも有効な場合もあります。

検索対象	適している方
雑誌論文	データベース
新聞記事	データベース(ただし、新しい記事を複数の新聞から調べる時には検索エンジン)
用語の意味	検索エンジン(時事用語等はデータベースでも可)
あるテーマの基礎知識	検索エンジン(本来は図書から調べるのがよい)
あるテーマの最新動向	検索エンジン(ただし、ごく最近の情報でなくてもよいのなら、データベースの方がよい)
あるテーマの関連情報	データベース
古い年代の情報	検索エンジン(年代によってはデータベースでも可。本来は図書・雑誌から調べるのがよい)
複数の分野・幅広い分野からの情報	検索エンジン(学術分野に限るのであれば、データベース)
非常に特殊な内容の情報	検索エンジン

特に、雑誌論文・新聞記事については、皆さんが学習・研究を行ううえで接することが多い資料です。それらを調べる必要が出た時には、ぜひデータベースを活用してみてください。検索エンジンを使うより、レポート・卒論作成に適した情報が容易に得られることを実感されると思います。